

働こう障害者も 働けるんだオレたちも

# こぶしだより

2000年

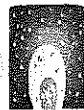
2月25日発行

発行

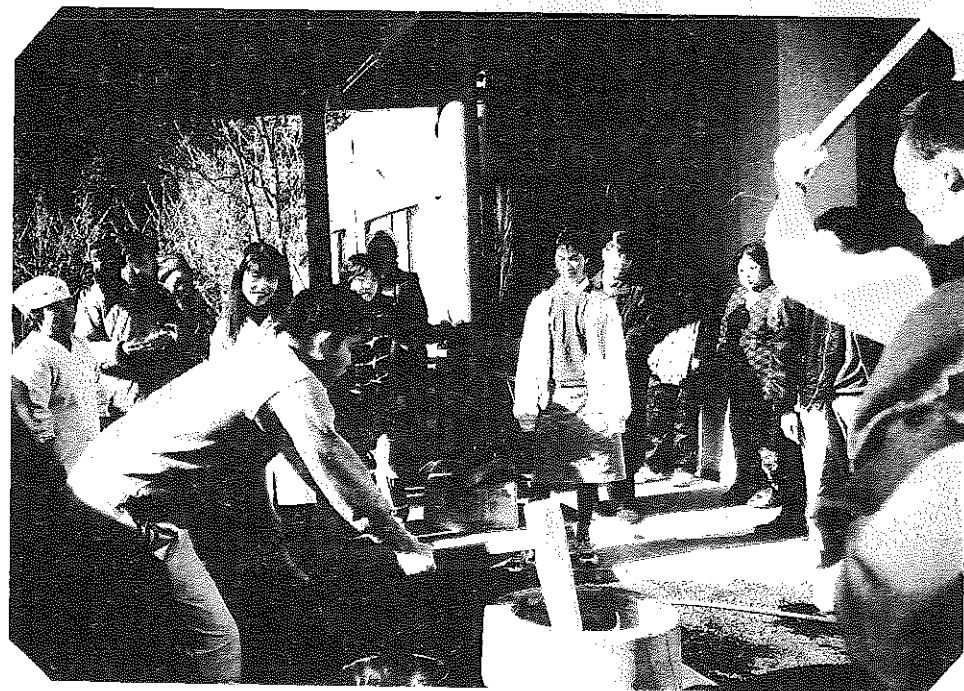
—こぶしの会—

宇都宮市柳田町1401

TEL 028-662-1911



## おいしい餅をつくぞ!!



寒い中、みんなが見つめる中、重い杵を持って頑張る仲間達！  
おいしいお餅ができないと、後が怖いかな・・・！？  
重い杵の他に、期待も背負って一生懸命ついています。  
(けやき作業所にて)

# 「さらさら石けんさび！」

こぶし作業所 石けん班の作業を通しての、就労支援に関わる記事です。仲間のためになができるのか？を考えていきます。

「はくい、いらつしゃくい、石けん買ってくださくい、僕の作った石けんです。」



石けん粉碎作業を行う野中隆司さん

これは、あるイベントでこぶし作業所の野中君が石けんを販売しているときのかけ声です。でも、野中君は特別なことをしているとは思っていません。あたりまえに、自分たちの作った石けんを自信を持って堂々と、少しでも多くの人たちに買ってもらうとしていいる姿です。

仲間のそんな姿を見ると、何のために石けん作業を取り組んできたのかをあらためて問いかえさせられてしまいます。

こぶしで石けん作業の取り組みを始めて六年が経過しようとしています。その間、石けん作業に関わる仲間や職員が、試行錯誤くり返しながらより良い石けんをめざして現在の水準までたどりつきました。また、昨年からはけやき作業所においても石けんの取り組みが開始しました。そして、これからが目的であった仲間たちが自立できる生活をめざすことにむけた取り組みに力を入れていかななくてはなりません。もちろん今までも収入を増やしていくための行動は起こしており、その成果として新たなパッケージのかんせい、大口の販売先の開拓として学校生協、とちぎコープとも交渉をして商品として扱ってもらえそうなどころまでこぎつけました。

また、授産振興センターの協力を得て県内の施設や老人施設へと販売を増やしてきました。さらには、授産振興センターの中に、こぶし、けやきを中心とした石けんプロジェクトチームも作られ、新たな製造、販売のネットワークづくりが展開されようとしています。このほか、平出工業団地内の企業より大量の廃油を提供したいとの話も申し出もあり、その企業との連携の上に石鹸工場の設備の充実をはかろうと交渉が始まろうとしています。これら、地域の中の機関や企業に障害を持つ仲間の労働や生活に理解と協力を求めていることも私たちの役割だと考えています。

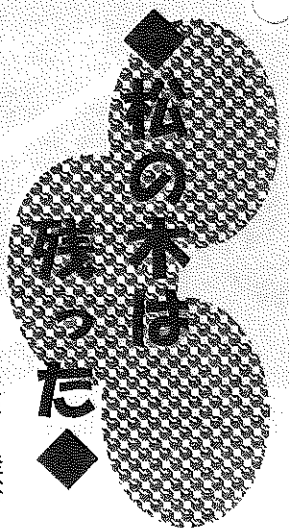
石けん作業をさらに飛躍させるには販売の他、質の向上も目指さなくてはなりません。それには、製造技術を高めることも重要な課題で、作業開始当時から必要とされていた石けんのモニター、普及、技術指導等々に関わる協力組織「石けん友の会

(仮称)」をつくることも取り組み始めます。

先日、こぶし、けやきの石けん担当職員と話し合う機会がありました。が、前述の文章はその時に話し合われた内容です。当面の課題としてこれらの取り組みを強めていきますが、その他にもたくさんの方の夢や意見も語り合われました。例えば「こぶし、けやき合同の設備を充実した石けん工場をつくりたい」。「販売の時に仲間が作ったというのを、宣伝に使いたくない」「仲間が作っていることに価値を見いだしたい」と、一見、相反するかに見えて、考えの底ではみんな仲間が働くことについて真剣に受けとめていることがよくわかりました。

堂々と、自信を持って石けんを売っている仲間を裏切ることのないように私たちも、自信を持って石けん作業を考え、行動しなくてはならないと、心しました。

こぶし作業所所長 住谷 佳裕



こぶし作業所は今年で二十周年を迎えます。今まで様々な苦勞や喜びなど数え切れないほどありました。そこで、こぶしの住谷所長より、一言頂きました。

昭和五十一年頃、こぶしの認可を得るため建設用地をみんなで真剣に探していました。

その時、柳田町の郷間さんから所有地を提供してもよいというお話があり、建設運動は俄かに進展することになりました。私が現地を見に行つたのは秋も深まった快晴の日でした。土地は周りを水田に囲まれた赤松の

大木の茂る孤島のような感じの林でした。藪の中に踏み入っていくと茸が沢山みつかりました。(後で聞いたところでは、初茸が出る山だということでした。)周囲をぐるつと一周し、少し離れてみますと赤松の色がきれいに映え何か幼い時ここで遊んだような既視感や懐かしさの感じられる場所でした。

建設が本決まりになり設計を頼む時に要望したことは、この赤松を残して貰うことでした。大小様々でしたが、およそ二十本程あったでしょうか。建物にかかってしまうのでどうしてもその半分を切り倒さなければならぬことになりました。生々しい切り株は直径が六十センチのものもありました。その残った半分ですが、こぶしが開所されてから次々に松喰虫にやられて一本へり二本へりだんだん少なくなっていました。

一枝が元気を失って来たかと思うとたちまち全体が赤茶色に変わり生気を失ってしまう。その無惨な姿は人

生の無情さを感じさせるほどのものでした。

開所から五・六年の間にととうと残り一本になってしまいました。この一本が何時枯れるかもう時間の問題と思われました。しかし、この一本は頑強に生き執着しているようで元気に育っていき、二十年後の今も緑と美しい赤い幹を見せています。たった一本残った松の木・・・こぶしにとつては、開所前より存在しこぶしの歴史を眺めてきたたった一人の証人・・・これからもそのすらりとした端麗な姿を保ち続けて貰いたいものだと思っております。



★こぶし・けやき両自治会  
会長より新年のご挨拶★

こぶし作業所自治会長

新年の抱負

今年も、仲間たち力を合わせて頑張りたいと思います。また、少しでもみんなの給料があがるよう仕事のほうも頑張りたいと思います。

こぶし作業所自治会長 大橋義一

けやき作業所自治会長  
新年の抱負

新年あけましておめでとござい  
ます。

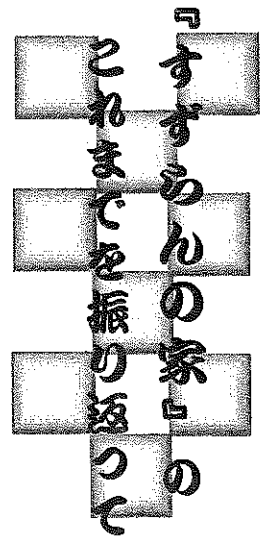
昨年度は自治会の役員が途中で抜  
けたこともあり（就労のため）大変  
な年でした。私も十二月に入院して  
他の役員に迷惑をかけてしまいました  
た。お詫びしたいと思います。

今年もできれば役員をやっていき  
たいと思います。去年は自治会活動が  
あまりできなかったので、今年こそ  
けやきの仲間たちが話し合って活動  
していきたいと思っています。

けやき作業所自治会長 直井信也



けやき作業所自治会長 直井 信也さん



けやき作業所のグループホーム「すずらんの家」がこぶし作業所の「ときわ荘」と同じ時期に開設して三ヶ月が経ちました。その期間を振り返ってみました。

「すずらんの家」は昨年四月に試行的に開所し、半年間の試行期間を経て昨年の十月一日に正式に開所となりました。現在利用する仲間は五名ですが、そのうち四名はけやき作業所近くの紙製品加工会社「エイコーパック(株)」に昨年九月から一ヶ月の実習、三ヶ月のトライアル雇用を経て今月より無事二人ずつ午前、午後の二交替での正式雇用となりました。空いた時間はけやき作業所のそ

れぞれが所属していた部署で作業を手伝っています。

もう一名は福祉的就労としてけやき作業所に通っています。（彼女はたぶん栃木県にあるグループホームの中で唯一福祉的就労をしている人なのではないかと思えます。）※（こぶしのときわ荘のメンバーを除くと）栃木県ではグループホームにはいる方は一般就労していることが求められていた。

さて、仲間の普段の生活は午後4P  
イコーパックに行っている仲間をけやきから迎えに行くことから始まり  
ます。高久商店でお菓子を買ったり、  
エイコーパックの自動販売機で飲み  
物を買ったりしながら元気に帰って  
きます。けやきのパンをみんなで分  
けて食べた後、食事作りする人、清  
掃する人、のーんびりかまえる人に  
分かれて動き始めます。“○○さー  
ん てつだってよー”と助けを求め  
る人、私に何かやるたびに“きりちや



のんびりくつろぐずずらんの仲間達 ん！？と思ったらお馴染みの客人がご飯を食べてにっこりしています！！

ん〇〇やりました”と報告してくれる人、あーでもない、こーでもない”と悪戦苦闘しながら家事をしています。夕食が終わるとみんなでこたつにあたりながら、お菓子をつまみながらTVを見たり、その日に起こったことをいろいろ私に報告してくれます。そんな時よく仲間は私に相談ごとを持ちかけてきます。“何か不安なんだよね”夢って何だろう？”等。そのたびに私は仲間と一緒に悩み、わかりやすく答えるようにしています。しかし、納得できないところがあるのか何回も同じ様なことを聞いてきたりする仲間もいます。また、この時間は仲間同志話し合いをする時間ともなります。旅行の打ち合わせや、こぶしのときわ荘との定例交流会の打ち合わせ、さらに、いろいろ問題が出たときに開きます。

この頃は問題が出ると“ミーティングするよ”と言いながら、私の知らないところで仲間同志解決している時が多く、私には”〇〇すること

にしたから”と報告のみの時が多くなってきました。開所してまもなくの頃は問題が起きてけんかになると長引いて下手すると仲間が実家に帰るといったことがたびたびありました。が前に書いたように昨年九月よりヘイコーパックでの実習が始まった頃から仲間同志の結束が深まったようです。同じ仕事をしていることで共通の話題ができ“今日はこんなことやったよ。大変だったね”と仲間話し、労をねぎらうことを知ったようです。

昨年十一月二十日に“ずずらんの家の開所を祝う集い”を開いていただきました。後援会の役員の方や保護者の方々にも忙しい中来ていただき総勢五十名程度の小じんまりした会でしたが、仲間は“どうしてこの会を開くのか”“どう自分たちなりに説明したりもてなすか”ということを実行委員として話し合い少ない時間で立派に(？)集いを成功させたことは評価できると思います。



すずらんのメンバー 左から見目アイ子さん、床井悦子さん、森島晴美さん  
塚本展子さん、塚本ヤヨエさん

さて、これから“すずらんの家”が三百六十五日開設するにあたってはいろいろ課題があると思います。

一つは土、日の過ごし方。仲間が興味あるものをこの休日を使ってじっくり取り組ませたり、普段なかなかできていない自室の清掃等を自分の意志で決めてやって欲しいところですが、現在は、誰かが“こうしよう”というのみならず一緒に行動する時が多いので“自分で決めて行動すること”を身につけて欲しいです。

もう一つはボランティアの組織作り。現在けやき作業所に定期的に来るボランティアさんは皆無に近い状況でこれから“けやき作業所”“すずらんの家”に賛同してくれる方を探すところです。

どんどん“すずらんの家”に遊びに来て下さい。仲間たちが彼女たちなりのもてなしをしてくれるでしょう。場所は高久商店わきの細い道を

入ったつきあたりです。お待ちしております。お祈りします。

けやき作業所 切無沢

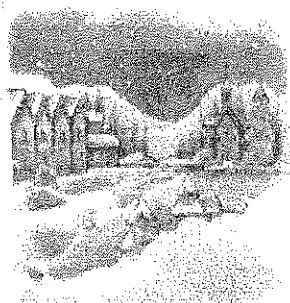
●詩集 (第4集)

●元氣だしなよ●

鈴木サチ子著

無認可時代、こぶし共同作業所の仲間のひとりだった。鈴木サチ子さん(現春日町在住)が詩集《元氣だしなよ》を出版しました。(十二月下野新聞でも紹介)大変好評で増刷を重ねています。是非一読下さい。

一冊 四百五十円  
申込み先 こぶし作業所 鈴木まで



## こぶしの視点

## 第9回

こぶし、けやきには、年間通して、多くの養護学校の生徒さんが実習にやってくる事は以前にも書いたが、近年、ろう学校の重複障害を持つ生徒さんも実習として、こぶしを利用するようになってきた。この三月ろう学校に重複学級が設置されて最初の卒業生が社会に巣立つのだと言う。しかし、実習をした生徒さんの他にも「卒業後の進路が決まっておらず、卒業間近にして、不安な日々を過ごしている。」とお母さんの言葉。先日、こぶしで、複数のそんなお母さんたちと話しをすることができた。「本当にどこへ行けば良いのか、どこに行けるのかわかりません。」「西へ東へ、入れるかもしれないと聞いて飛んで行くと“ダメですね”と断られ、その帰り道の遠かったこと。」「本人が一番落ちついて過ごせて、親も安心できる場所へ行かせたい。」とお母さん達の切ない気持ち、そして、子どもに合った（ろう重複が受け入れられ、考慮された）作業所や施設が欲しい、自分たちで作れたら・・・との想いも語られた。ろう重複の卒業生は、毎年確実にいて、他の養護学校同様、卒業後の問題は深刻。知的障害と合わせ、聴覚の障害に視点を当てた中味を考えた作業所・施設作りが、この栃木にも、と強く思うのは私だけではない。

今、芳賀地域に作業所を作ろうとの動きがはじまっている。足尾町では、作業所をと願う人々が集い地道な活動がはじまった。そして、高根沢町でも施設作りをめざして地域に根ざした活動を粘り強く行っている会がある。二日に一ヶ所とまで言われる全国の作業所作りは、こうした切実な思いや願いを実現させたい人たちの手で生まれてきているのだ。ろう重複のために何が必要か、何ができるか、二十周年を迎えたこぶしとしても又、新たな課題を与えられたのではないだろうか。

こぶし 鈴木

## コブシノシテン

## 今後の予定

二月

二七日 日曜作業所

(こぶしのみ)

三月

一日 避難訓練 (こぶし)

四日 職員会議

六日 避難訓練 (けやき)

十二日 日曜作業所 (こぶし)

十九日 職員会議 (けやき)

二十一日～二十四日まで

総括会議 (こぶし)

LET'S GO  
SKI



# 祝！！成人式 おめでとうございます！！

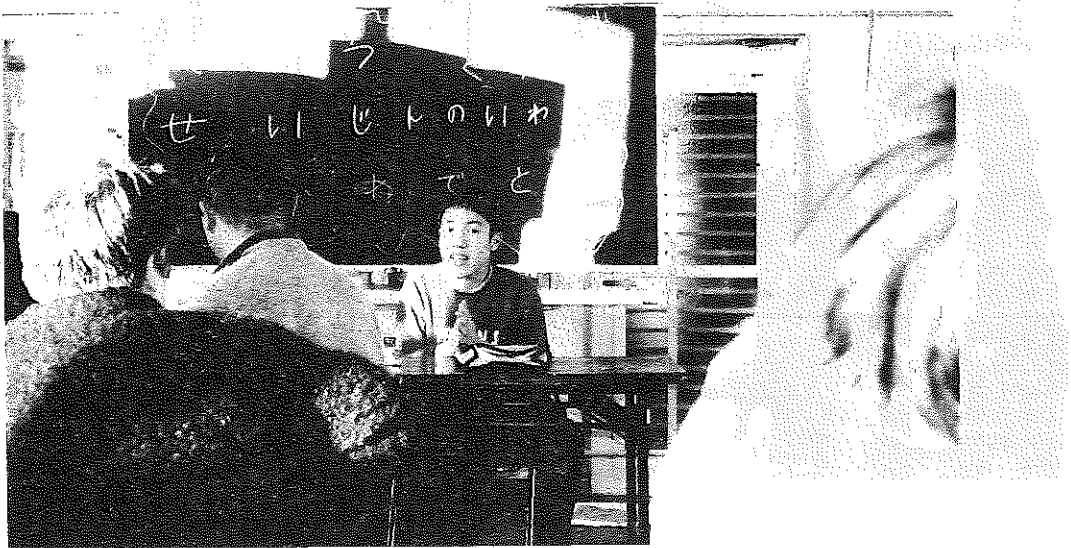
こぶし作業所 1名 けやき作業所 5名が今年、  
新成人を迎えました。これからのご健闘をお祈り申し上げます。

こぶし編

♥♥♥友章君成人おめでとう♥♥♥

いつも元気な友章君は散歩が大好き。

「お散歩行きたい！」といつもお話しています。歌、音楽もとても大好きで歌詞の先取りが出来る程。メロディーにこそならないものの、身体でリズムにのり嬉しさが伝わってきます。



鬼頭君のご両親からお祝いのメッセージを頂きました。

大人の仲間入りですね、思い起こせば昭和54年も押し迫った暮れの29日に産声を上げ、幼少の頃より風邪を引いては、気管支炎や肺炎を患いとても体の弱い子でしたね。その頃より親はいつも病院とのつき合いが始まり今でも続いています。

でも楽しみもあります。テレビはあまり見ませんがCDを掛けると歌が始まり、歌を聴いているときはとても落ち着いています。私が離れたところから声を掛けて振り向いた笑顔は何を思い浮かべているのだろうと思います。

友章にとってハタチとは一つの節目だと思います。沢山の人の支えが無くても生きていけないと思いますが、道草をしながら友章のペースでのんびりと、一緒に歩いていきたいと思っています。

# けやき編

- ◆阿久津 智さん◆
- ◆逆井 晴香さん◆
- ◆黒子 裕信さん◆
- ◆野沢 直人さん◆
- ◆諸橋 優子さん◆

おめでとう  
ございます！

けやきを代表して諸橋優子さんのご両親からメッセージを頂きました。



みんなの前で挨拶をする諸橋優子さん

優ちゃん成人おめでとう！  
もう二十歳なんだね。  
小さいときは、体が弱く高校一年の時は、大手術をして、お父さん、お母さんを心配させましたね。でも今は、元気で作業所へ仲間のみんなど楽しくしている様子を見て、少し安心しています。  
これからも、色々なことがあると思いますが、優ちゃんの頑張り強さと、やさしさを忘れないような、そんな大人になっていって欲しいと思います。



同じく阿久津智さんの挨拶です。

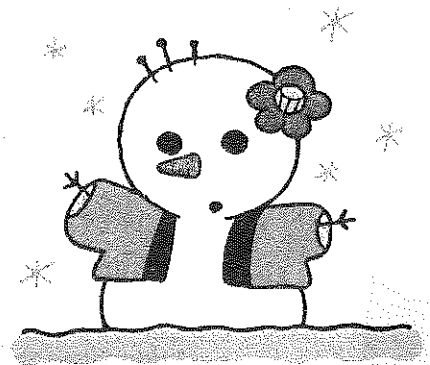


逆井晴香さん、祝福されてうれしそうです。

## 職員人事のお知らせ

けやき作業所で書記を担当していた川島悦子さんが平成11年12月31日付けでご退職されました。

川島さんは大人の女性、というかいいお母さんといった感じで仲間や職員から慕われて、色々相談を受けたり、面倒をよく見てくれました。これからのご活躍をお祈りします。6年間ご苦勞様でした。



水沼のぞみさんと販売する川島さん

99年芳賀町民祭にて

## 新任職員のご紹介

堀江 由美です！  
よろしくお祈りします。

12月20日からけやき作業所サービスセンターの指導員として働くことになりました。仲間達と一緒に頑張っていきたいと思っておりますのでよろしくお祈りします。

今月は共同作業所連絡会賛助会員・こぶし作業所・けやき作業所の後援会会員拡大月間です。お知り合いの方でまだこぶし・けやきの活動等紹介されていない方がおりましたらこぶし・けやきまで連絡していただければこぶしだより等資料をお送りしますので下記までご連絡下さい。

<共同作業所後援会会員については>  
共同連とちぎ事務局（けやき）まで  
<各作業所後援会会員については>  
けやき作業所028-687-1040  
あるいは  
こぶし作業所028-662-1911  
までお願いします。

後援会会員拡大に  
こぶし・けやき  
共同連賛助会員。  
御協力下さい。

★こぶしだより編集委員会からのお知らせ★

- ◎ご意見・ご感想がありましたらこぶし・けやきまでお願いします。
- ◎特集してほしい記事があればお知らせ下さい。



社会福祉法人 こぶしの会

法人事務所・こぶし作業所

〒321-0902

栃木県宇都宮市柳田町1401

☎ 028-662-1911

FAX 028-662-1912

けやき作業所・デイサービスセンター

〒321-3304

栃木県芳賀郡芳賀町祖母井2244

☎ 028-687-1040

FAX 028-677-5789